

研究・調査報告書

報告書番号	担当
5 6	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Lifetime alcohol intake and breast cancer risk. 生涯摂取飲酒量と乳癌リスクとの関連	
執筆者	
Terry MB, Zhang FF, Kabat G, Britton JA, Teitelbaum SL, Neugut AI, Gammon MD.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Ann Epidemiol. 2006 Mar;16(3):230-40.	
キーワード	
アルコール、乳癌、エストロゲン補充療法、BMI	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>1日1～2飲酒単位（1飲酒単位はアルコール約15gに相当）の適量飲酒でも乳癌のリスクが30-50%増加することに関して諸報告の一致するところである。しかしこれらの関連が何時飲酒をしたか、あるいはBMI、閉経、ホルモン補充療法によって影響を受けるか、あるいは飲酒の影響はホルモン受容体陽性腫瘍において顕著か否か、さらに浸潤性癌か粘膜内癌において顕著か否かの問題が未解決である。</p> <p>方法：</p> <p>上記問題を解決するため地域住民を対象とした大規模(1508人の症例と1556人の対照)研究を実施し飲酒その他の生涯暴露状況に関する詳細なデータを収集した。</p> <p>結果：</p> <p>15-30g/日（おおよそ1～2飲酒単位）の飲酒を生涯に亘って続けると乳癌が33%と少し増加した（オッズ比 [OR] = 1.33, 95%信頼区間 (CI) = 1.01-1.74）が、さらに大量の飲酒(30g/日かそれ以上)はリスクを増加させなかった。乳癌リスクは酒類（ビール、ワイン、ウイスキーなど）や飲酒を何時始めたか（最近、20歳以前の開始、さらに若年での開始）には関連しなかった。生涯飲酒と乳癌リスクはBMI < 25の女性にのみ認められた（OR = 2.13, 95% CI = 1.29-3.54）。1日1飲酒単位の飲酒はBMI < 25の女性のエストロゲン受容体陽性癌の発症と関連したがBMI 25以上の女性には関連しなかった。また浸潤性癌についてのみ飲酒との関連がみられたが（OR = 1.56, 95% CI = 1.11-2.18）、粘膜内癌については認められなかった。</p> <p>結論：</p> <p>本研究の結果により生涯に亘る適量飲酒は乳癌のリスクを増加させること、とくにこのことはBMIが低い女性において、エストロゲン受容体陽性癌において、さらに粘膜内癌よりもむしろ浸潤癌において顕著であることが判明した。リスクの増加は適量飲酒に限定されること、何時飲酒を始めたかには依存せず、さらに大量飲酒には認められず、酒類には依存しなかった。</p>	